

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	5つの法人理念と合わせて「家庭的な環境のもとでの日常生活の介助を通して、安心と尊厳のある生活を営むことができるように支援する」ことを目的とした運営方針を実践している。	○	今後も法人理念とさわやかハウスの運営方針や目的を定期的に周知し、全職員に浸透させていきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	法人の基本理念は、事業所内に明確に掲示し、全職員が認識している。ステーション会議や業務研修会では、重要事項説明書を用いて、事業所の運営方針や目的を共有している。		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	事務室横に法人基本理念を掲示し、訪問者にも示している。またご家族様には、毎月の「ハウスだより」と同封し送付する等しているが、地域への浸透はまだ不十分である。	○	津田地区民生委員の会、地元自治会の会合等で示していきたい。また年4回発行している広報誌「さわやか」を通じて、地域の方への理念の理解を図っていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	月1回の不燃物仕分け排出作業等を通じて、事業所の様子を伝えたり、気軽な訪問を声掛けしているが、日常的な付き合いができるまでには至っていない。		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	学生、生徒の訪問を積極的に受入れたり、地元小学校や地区市民運動会に参加し、利用者様と児童、市民との交流を図っている。	○	春には、統合再編校の地区運動会に参加したことにより、同地区出身の利用者様は地区住民と話しをすることができ、笑顔が溢れていた。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域へどのような貢献ができるか模索している状況である。職員の講師派遣や清掃活動への参加等を考えている。	○	毎年行っている「津田松原クリーン作戦」に利用者様と共に参加したいと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を通して、より良いサービスが提供できているか認識できることを全職員が理解している。	○	初めての外部評価であり、外部の方の客観的な評価のもとに全職員が話し合い、今後のサービス提供の指針にした。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	過去2回開催。参加者は、地域住民の代表者、利用者様及びご家族様、市職員、事業所職員で構成されている。会議録を作成、保管し、提案された意見をサービス向上に活かしている。	○	運営推進会議の中で、津田地区ボランティアリーダーとの連携を推進してはどうか、との意見を頂いた。次回より運営推進会議への参加やリーダー会議への出席を検討している。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業の運営に関する疑問点や確認を要する事項については、その都度、市町村担当者の所に出向いたり、電話での問い合わせを行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者については、法人内に設置している相談援助推進室会議において学ぶ機会があったが、他の職員については今後、事業や制度の理解を図る機会を持ちたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で、全職員を対象として毎月開催されている職員全体会議において、研修を行ったことにより、全職員により虐待の防止の徹底を図ることができている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時における契約及び解除は、懇切丁寧な対応を心がけている。特に退所時には、進路相談や退所支援を行うことができた。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や苦情解決制度を通して、利用者様、ご家族様の意見が反映できる環境が整っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ご家族様宛てに「ハウスだより」を発行している。この「ハウスだより」には全職員が関わり、利用者様個々の生活状況や健康状態、行事予定等を連絡、報告している。	○	運営推進会議の資料を本会に参加されていないご家族様にも送付している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「さわやか介護サービス苦情解決制度」の説明の記事を、広報誌「さわやか」に掲載したり、事業所内に掲示する等している。その制度に基づき、玄関に苦情受付箱を設置している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のサービスステーション会議内で職員の意見や提案を聞くことができる。また半期毎に実施している自己評価の中で、「仕事や運営に関してまたは上司に対して意見、要望、提言等」を受け付ける体制になっている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	要望や希望、利用者様の健康状態に合わせて、全職員が柔軟な対応ができるように、管理者、主任が中心となり、勤務調整を行っている。	○	併設有料老人ホームが住宅型であった際にはグループホーム側の職員の勤務時間体制を変更しながらハウス全体の運営に支障がでないように努めた。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設より2名の職員が現職場を離れた(退職1名、異動1名)が影響は最小限に抑えることができた。異動した職員については、異動先の状況を見ながら、グループホームの利用者様との交流を持つようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の方針により、認知症ケアを中心とした様々な外部研修へ積極的に参加している。研修後には、研修報告会を開き、研修に参加した職員から全職員へ知識、技術を伝達している。	○	スキルアップを目的とした「良いところは見習おう」を実践している。同僚を身近な先生と捉え、共に働きながら技術の向上を図っている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地域の同業者との交流する機会がなく、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動、交流は行っていない。	○	県グループホーム協議会や市介護保険課の協力を得ながら、他施設事業所や勉強会に参加したいと考えている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	夜勤回数を月5回以内を目標とし、日中の勤務日や所定公休日の確保に努めている。また施設長、管理者が積極的に職員と面接する等して、職員の話を聞く機会を持つようにしている。	○	地区の社会体育施設を月2回利用して、法人の全職員を対象とした、職員間の交流、心身のリフレッシュを目的としたスポーツ活動を実施している。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	サービスステーション会等にて、外部研修の案内をし、参加希望者の勤務調整や参加費、研修費を負担している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前訪問調査において、本人から不安な点や要望、希望を伺っている。また担当ケアマネジャーからも情報収集し、利用受入準備を行っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	訪問調査時や契約時において、ご家族様等の話を傾聴するように心掛けている。また利用開始してから2週間後にも、管理者、計画作成担当者等がご家族様等と話し合う機会を設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談は随時受け、現状を伺い、必要であると想定されるサービスについて助言している。また居宅サービスの必要性がある場合には介護支援専門員の紹介も行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前より、見学や話し合いの機会を設け、生活観や家庭環境の把握に努めている。また同じ敷地にある他施設との相互訪問により、利用者同士の交流を図っている。	○	入所するまで、利用していたデイサービスやデイケアへの訪問やデイサービス、デイケア利用者様からの面会を積極的に受けている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	可能な限り家庭的な雰囲気の中で、利用者様と共に食事、清掃、洗濯等に取り組み、利用者様から学び得た事柄や支え合う関係が保たれている。	○	小高い山腹に事業所が建っており、平地までは坂道で距離があり、身体機能維持を目的とした散歩等ができないので、代替の訓練を考案中である。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や介護計画の話し合いの際に、できるだけご家族様と話し合う時間を持ち、ご本人様を支えていく関係を築くように努めている。遠方のご家族様にも定期的な面会を依頼し、情報交換を行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月1回発行するハウスだより等で、行事への案内、利用者様の身体状態を伝えたり、受診する場合には同行を依頼する等して、利用者様とご家族様とのより良い関係が築いていけるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の支援、馴染みの物品の持ち込みを依頼し、これまで過ごしてきた環境や付き合いが継続できるように努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様の性格や個性を考慮し、レクリエーションや共同作業等を通して、利用者様同士が関わり合い、支え合えるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所先が決定するまでの援助は行えているが、その後の交流は十分でないと思われる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用事前調査やケアカンファレンス時の面談で伺った本人、ご家族様の意向をケアプラン等に取り入れ、支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用事前調査や居宅サービス事業所、担当ケアマネジャーからの情報から生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の利用者様に担当職員を配置し、センター方式(アセスメント)を用いて、生活状況、心身状態等の把握に努めている。	○	センター方式がまだまだ十分に活用できていない状況である。当法人が現在開発している「さわやか型センター方式」が完成すれば、そのアセスメントを使用して暮らしの現状把握をしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、各職員からの意見の聴取、ケアプラン実施状況の把握を行っている。またカンファレンスには、できるだけご家族様に参加して頂き、介護計画についてのご意見を頂くように努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には、3カ月毎に計画を見直しているが、利用者様の心身状態の変化やご家族様の意向により、随時計画が見直されている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や情報に基づき、カンファレンスで提言するようにしている。また即効性のあるサービスや試験的なサービスの提供が必要な場合は、申し送りノートを活用して、計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人様やご家族様からの要望や意向に対して、その都度柔軟な支援が行えるように努めている。同じ敷地にあるデイサービス、デイケアとの連携も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	公的機関等地域資源の活用が行えていない。	○	運営推進会議の参加者から提案して頂いた地域のボランティアリーダー組織との連携を図っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、他のサービスの活用はしていない。今後、本人の意向、必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合っていきたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	良好な関係が築けている状態であり、随時、助言や情報提供をして頂いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に看護職員が送迎や介助等受診支援を行い、主治医からの指示や指導に対応している。必要に応じて、ご家族様にも同行を頂き、適切な医療を受けられるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	看護職員が受診介助を行った際に、主治医にハウス内での生活の様子や投薬の状況等について相談し、指示や指導を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者様の小さな変化に対しても、介護職員と看護職員が協働して、体調管理に細心の注意を心掛けている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	開設後、入院した利用者様はいない。利用者様が入院した場合、早期に退院し、受入れが行えるように医療機関と連携したいと考えている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合もハウスでの生活が継続できるように支援する方針である。またターミナルケアについても、ご家族様の意向を反映しながら実施したいと考えている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在、全職員で事業所の方針を共通に理解し、体制づくり、チームケアの大切さについての勉強会を行っている。	○	法人全体でも、統一したターミナルケアに関する方針を提示し、研修を実施する予定であり、今後当グループホームもそれに沿ったチームケアを行う方向である。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在まで、住み替えた利用者様はいないが、今後住み替えがあった場合は担当者会に出席する等して情報交換を行っていききたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全体会議やサービスステーション会議等にて、個人情報取り扱いについて周知徹底を図っている。	○ 事務室内で保管している書類の管理については、現在、鍵付き書庫等の設置を検討している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日頃の関わりの中から、本人の能力を把握するように努め、自己決定ができることに関しては、できるだけ本人が実施できるように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様個々の1日の生活パターンを把握し、起床時間や朝食時間を個人のペースに合わせて、その人らしい生活の支援に努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族様の協力を得ながら、美容院への外出が行われている。またご家族様が遠方に住んでいる利用者様については、職員が同行し、身だしなみやおしゃれに必要な買い物に出かけている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様ごとに好きな食べ物、嫌いな食べ物を聞き、管理栄養士と相談しながら食事を提供している。職員が利用者様と共に準備、食事、片付けを行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	特に男性利用者様には、晩酌や喫煙をできるだけ制限せず、今まで通りの生活が継続できるように支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	認知症の症状により、排泄場所や排泄動作が難しい利用者様については、排泄パターンや習慣を把握し、気持ちの良い排泄が行えるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には定期的(曜日指定)な入浴は行わず、週3回程度入浴が行えるように支援している。個浴を行っているが、立位、座位が不十分である利用者様には、職員が2名体制で入浴介助をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご自宅より、使い慣れたベッドや寝具を持ち込んで頂いたり、寝酒を勧める等安眠できるような支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力や生活習慣から、できることを把握し、共同生活の中での役割を分担している。食事作りや洗い物、洗濯干し、清掃活動に各々が活動している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	約半数の利用者様からお金を預かり、管理している。外食や買い物に出かけた際に、自らが会計で支払いができるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の車両を使用し、集団での外出支援はできているが、一人ひとりの外出はご家族様に頼っているのが現状である。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月のドライブや隔月の外食のレクリエーションを計画し、実施している。	○	外食レクリエーションでは、回転寿司へ、ドライブでは鳴門の「渦の道」へも行く予定である。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	数名の利用者様について、希望があれば、ご家族様への電話の取り次ぎを行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族様には、面会を依頼する声掛けを常時行っている。同じ敷地にあるデイサービス、デイケアを利用している馴染みのある利用者様の訪問を積極的に受けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体会議等において研修を行っており、身体拘束をしないケアについての理解はできている。現状、身体拘束は行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	正面玄関は午前8時～午後8時まで開放している。各居室については、在室していない時間帯のみ、一時的に施錠している時もある。	○	建物の玄関は3カ所あり、離棟センサーを設置している。グループホーム側の玄関は常時開放できていない時もあり、今後の課題となっている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	徘徊による離棟の危険性がある利用者様については、常に注意を払っている。夜間はベッド柵やシルバーカーに鈴をつけて、利用者様の動きには注意している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみや針等裁縫道具を持ち込んでいる利用者様がいるが、自ら管理できないため預かり、必要時に職員が付き添い使用している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者様一人ひとりの行動の変化を十分観察し、事故防止を図っている。申し送りノートや朝のミーティングで気になった事を報告している。事故報告書の提出、ヒヤリハット報告書活動に積極的に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護職員が中心となって、急変や事故発生時の対処方法の研修をしているが、定期的にはできていない。新人職員については、AEDを使った心肺蘇生法の研修を行った。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難誘導や初期消火訓練を計画中である。	○	1年に1度は避難誘導や初期消火訓練を実施したい。その際、地元地域消防団との連携を図りたいと考えている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時やカンファレンス時に起こりうる危険性をご家族様に随時伝えている。また、ご家族様から情報も得ながら、対処方法をその都度職員間で話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタル測定や入浴時の皮膚観察等により、変化や異変の早期発見に努め、変化や異変があった場合には速やかに看護職員に報告し、対応できている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	外部研修に参加した職員から、業務研修会で全職員に服薬支援の方法や注意点についての報告、説明があった。また日頃より、看護職員が利用者様一人ひとりの服薬について指導している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘薬に頼らず、十分な水分摂取と適度な運動による自然排便ができるように努めている。1日2000mlを目標に水分摂取を促している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、個々の利用者様に口腔ケアを行っている。法人内で開催している歯科衛生士の資格を持った職員による口腔ケア研修会に参加し、口腔ケアのレベルアップを図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を記入する用紙を目の届く場所に貼り、1日の摂取量が一目で分かるようにしている。飲み込みが悪い場合は、粥食やブレンダー食、トロミ剤を使用した食事を提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	サービステーション会や業務研修会で、看護職員が講師になり、感染症マニュアルに従い、感染症予防についての研修を行っている。利用者様、職員ともに、手洗い、うがいの励行に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	管理栄養士の指導を受けながら、食中毒の予防に努めている。食品管理庫や冷蔵庫を活用して、適切な保管を行っている。また調理器具も定期的に消毒、殺菌を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や事業所周辺で、お花作りや家庭園芸をして、一般家庭と同じような環境作りに努め、利用者様や来訪者の方々にも親しみを持てるような工夫をしている。	○	併設の有料老人ホーム利用者様にも協力して頂き、花や野菜を栽培している。収穫できた物も食材としている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには床暖房、各居室にはエアコンが完備されている。トイレは車いす対応型であり、お風呂は檜風呂である。ご家族様には、利用者様の馴染みの物品を持ち込んで頂くように依頼しているが、利用者間で差が出てきていることが今後の課題である。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを設置し、思い思いに過ごして頂けるスペースはあるが、共用空間にひとりになれるスペースが少ない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ自宅で使用していた物品を持ち込んで頂くようにご家族様に依頼している。利用者間で差があるが、施設的な雰囲気を出さないように努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	浄化槽や排水の臭いが気になっていたが、徐々に改善されてきた。できるだけ離棟には注意し、外気を取り入れるように窓や出入り口を開放している。	○	浄化槽の臭いが気になっていたため、改修工事を行った。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーであり、壁面には手すりを設置している。トイレには可動式手すりや肘置き具が完備されている。できるだけ自分自身の身体機能を生かし、ゆっくりでも立位、歩行ができるように工夫されている。	○	浴室、脱衣室に手すり等立位補助具の設置を検討している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	毎日のレクリエーションでは、初歩的な回想法を取り入れている。混乱や失敗が起こらないように、優しさを持った言葉かけやゆっくりと利用者様が分かる声かけに努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスや各居室には濡れ縁が設置されているが、現在有効な活用がされていない。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業所の運営方針に掲げているように、職員全員が利用者様、ご家族様、来訪者の方々に、いつも明るい笑顔であいさつや声かけを行い、家庭的雰囲気の中で穏やかで安心した生活を送って頂けるように努力しています。